

住ま

*…玄関の役割

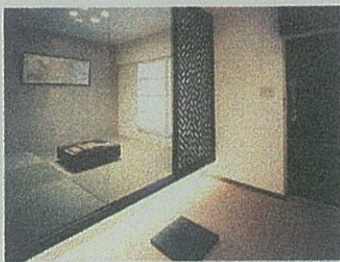
小学校で配られた生活行動のアンケートに、「あいさつができる」と並んで、「脱いだ靴をきちんと揃える」という項目があると知人に聞いた。靴を脱ぐ日本特有のしつけだなと思う一方で、居室優先のコンパクトな玄関は、このスタイルを十分に考慮しているのだろうか？と疑問に感じた。

玄関リフォームの要望は多く、最も切実なのは収納の増設だ。玄関収納を天井までのトールタイプにするのが一般的だが、限られたスペースでは扉を鏡貼りにしたり、収納を浮かせてたたきを広く見せたりといった、圧迫感を軽減する工夫

Let's リフォーム

西田恭子

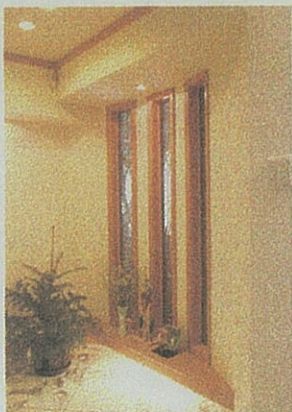
離れの役割を持つ
玄関ホール



来客を迎える飾り棚を設置



スポット照明とステンドガラスで明るさを演出



斎のように使われているが、ちょっとした来客と腰かけておしゃべりすることもできる。窓があるから風も抜ける。

内と外の接点として、かつては勝手口、縁側、裏玄関などがあったが、今は玄関のみというお宅も少なくない。応接からごみの出し入れまでさまざまな機能を包摂するにも、バリアフリーの観点からも、もっと広く個性的な空間があってもいい。わが家ならではの玄関は暮らしを楽しくする。子どもも自然と靴を揃えるようになる…といったのだが。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)

多機能へ…広く個性的な空間

が欠かせない。ウォークインクローゼットの玄関バーションであるシューズインクローゼットは、新築で人気のプラン。ベビーカーやゴルフバッグなど大きなものも収納でき、クローゼットから室内に入る動線を設けた裏玄関

関的なスペースとすれば、玄関に靴が散らかることもない。ただし、出入り口のみ分だけ収納スペースは少なくなる。

広く、明るくしたいというご要望も多い。家族が減って不要になった玄関脇の部屋を、取り払ったり狭くしたりして玄関を広げる、

あるいは、プラスアルファの空間を設けるケースが増えてきた。写真は、「美術館のような住まい」というご要望で提案した和室。たたきから直接入れるようにしてLDKや水回りのあるエリアと分離し、離れのような静謐な空間とした。書